

よく考えること

テレビ、YouTube、講演はいつも対象を意識してなされます。聴取者が理解し難いこと、聴取者が一生懸命考えてようやくわかることを言っても聴取者の反応はよくありません。誰にでもわかるように言うと、聴取者の反応はよく、盛り上がります。しかし誰にでもわかることが正しいことかというそうではありません。物事は多面的に見なければならぬのに、多面的な見方はわかりにくいのです。また深いことを言うとうわかりにくいのです。例えば微分、積分の話をして、一般の人には簡単にわかりません。どうしたことだろうと懸命に考えてようやくわかるものです。簡単な四則計算の話は誰にでもわかりますが、微分、積分は簡単にはわからないのです。簡単にわからないから、微分、積分は数学として四則計算に劣るということにはなりません。むしろ逆に人にわからないから、深く、多面的であり真理であると言えます。微分、積分のような話はテレビ、YouTube、講演ではなされません。そんな話をしても聴衆は何のことだろうと思うだけです。テレビを見ている人は微分、積分のようなわからない話を聞くと、おもしろくないと思いチャンネルを変えてしまいます。それで視聴率は上がりません。YouTubeで微分、積分のような話を聞くと、おもしろくないと思い見てくれません。それで再生回数が上がりません。講演で微分、積分のような話をしても聴衆は何のことだと思うだけです。聴衆の受けが悪いから、その講演者はもう呼ばれなくなります。

本も読者の受けを狙って、単純にわかりやすく書いてあるものも多いですが、読者の評価を考慮せず、読者にわかりにくくても、自分が正しいと考える、多面的で深い見方を説く本もあります。古典は特にそうです。また本はわからないと、読むのをやめてどうしたことだろうかとよく考えてみることができます。テレビ、YouTube、講演のように次々と目や耳を刺激するものが入ってきて人を考えさせないものとは違います。『孟子』に「公都子問いて曰く、鈞（ひと）しく是れ人なり、或いは大人（たいじん）と爲り、或いは小人と爲る、何ぞや、孟子曰く、其大体に従えば大人と爲る、其小体に従えば小人と爲る、曰く、鈞（ひと）しく是れ人なり、或いは其大体に従い、或いは其小体に従う、何ぞや、曰く、耳目の官は思わずして、物に蔽（おお）われる、物が物に交われれば、則ち之を引くのみ、心の官は則ち思う、思えば則ち之を得る、思わざれば則ち得ざるなり、此は天の我に与える所のものにして、先に其大なるものに乎（おい）て立てば、則ち其小なるもの奪うこと能わざるなり、此は大人と爲るのみ」とあります。考えることの重要性を説いています。テレビ、YouTube、講演をボーと聞いているだけで考えないなら、ほとんど進歩しません。古典を中心とした真理を説く本を読み、どうしたことだろうと、うんうんうなって考えて始めて人間は進歩するものだと思えるべきです。